

目的 普通に製造された中鎖トリグリセリド(例えばC₈酸:C₁₀酸:C₁₂酸=84.6:14.9:0.5)をシロネズミに与えると血清総脂質(TL)が著しく低下するのはリン脂質(PL), コレステロール(Ch), トリグリセリド(TG)がいずれも減少するためであり, また肝臓TLが増加するのはChやPLが増加することによる^{1,2)}。一方, 単一の中鎖脂肪酸(C₆酸~C₁₂酸)からなる各種のTGを与えたところ, トリオクタノイン(C₈TG)が血清の脂質類を最も低下させることを報告したが³⁾, 今回はC₈TGの投与量を数段階に変えて更に検討を加えた。

方法 ウィスター系雄シロネズミ(初体重約77g)をだいたず・パーム混合油(48.04:51.96, SP, 対照)とC₈TGの2食餌群に大別し, 両群を5, 10, 15, 20, 25%脂質添加の5食餌区(18%カゼイン-メテンボン食餌, 1食餌区7匹)にわけ自由食で14日間飼育した。7時間絶食後, 腹部大動脈穿刺より採血し臓器を摘出した。血清と肝臓脂質類は前報²⁾に準じ血清のGPTとGOTはピルビン酸オキシゲナーゼ・パークロルフエール法で測定した。

結果 SP群に比べてC₈TG群の成長は劣り, その添加量が多くなると成長も悪くなるが副腎丸脂肪組織重量は低い値を示す。血清TLはC₈TG群の方が低い値を示し, SP群は添加量が多くなると値が低下するがC₈TG群では変らず, この傾向はChにもみられた。血清GPT, GOTおよびs-GOTはSP群では20%添加区以上で高い値がみられるが, C₈TG群ではこのような傾向がみられない。肝臓TLはSP群では添加量が多くなると増加し, 同様のことがTGとChにもみられるが, C₈TG群ではこれらの傾向が認められない。

1) 第25回本総会研究発表要旨集 p.26 (1973), 第26回同 p.3 (1974) 2) 第33回同 p.49 (1981) 3) 第34回同 p.14 (1982)